



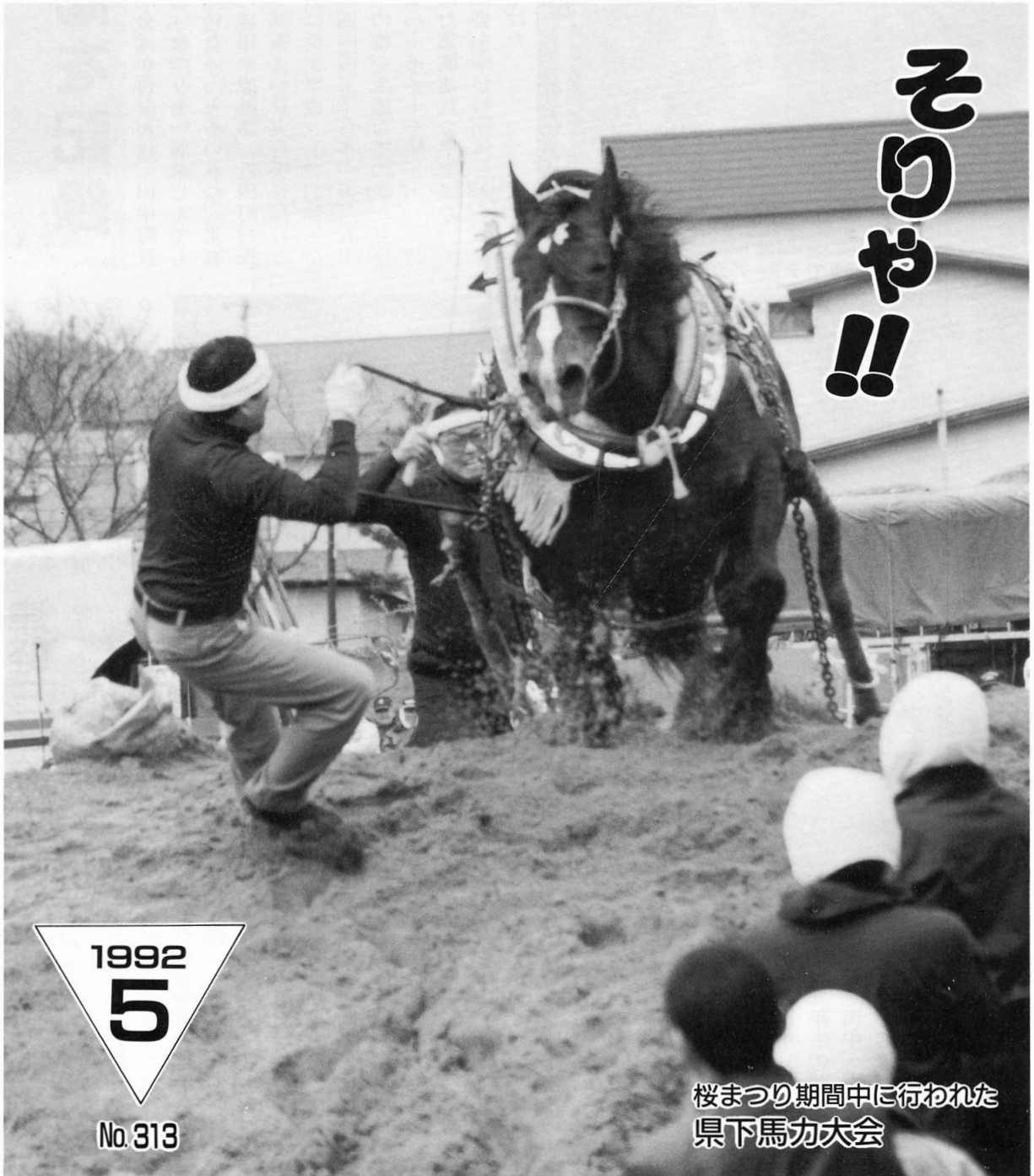
広報

かなぎ

編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町
大字金木字朝日山323
電話 ☎ 2111 内線240



そりゃ!!

1992
5

No. 313

桜まつり期間中に行われた
県下馬力大会

初日八万五千人

過去最高を記録

今年のさくらまつりは、肌寒い日が続いたものの、まずまずの天候で桜の開花が早かったのも手伝って、か初日の29日は過去最高の八万五千人（まつり事務局）の人数を記録、7日間で四十六万五千人の花見客で賑わった。

西北五地方最大の桜の名所芦野公園の「金木さくらまつり」は4月29日に満開の桜のもと、公園内の登仙岬入口で開会式が行なわれ、田中町長が「まつりを一層楽しんでほしい」とあいさつ、来賓の成田一憲県議、近隣町村長今誠康まつり実行委員長らと共にテープカットで開幕した。

園内の二千本の桜、五十本の梅、千四百本の松が見事なハーモニーを醸し出し、訪れた家族連れや車座になって酒宴を楽しむ団体などを盛り上げた。

に46万5千人 観光客で賑わう



登仙岬でテープカット



出店の前は人人人



宴会真っ只中

また、今年ほぼ完成した「こいの広場」には桜はまだまだ少ないものの噴水や花時計の周りを散歩する家族連れやカップルで賑わいを見せた。

津軽三味線大会

160名の参加

さくらまつり協賛
スポーツ入賞

今年で第4回を迎えた「津軽三味線全日本競技大会」が「津軽三味線発祥の地金木町先達のやすらぎを祈って」と題し、4日公園内演芸場で開催された。

大会には、県内をはじめ遠くは九州熊本などから160人が参加し、見事なバチさばきを披露した。

会場に詰め掛けた二十人の観客は桜吹雪が舞う中、力強い三味線の音色に聞き惚れた。本大会最高栄誉の仁太坊賞（27歳）が選ばれた。



津軽三味線金木大枝会のバチさばき

- ◎朝野球協会野球大会
優勝 C I T Y II
- ◎秋谷杯争奪兼西北五庭球大会
男子準優勝 金木南中学校
◎あしの陸上競技選手権大会
□小学校男子一〇〇M
優勝 長尾 潤
- 小学校男子二〇〇M
優勝 佐藤 暢郎
- 小学校男子千五〇〇M
優勝 菅原 浩
- 小学校男子四〇〇M R
優勝 金木小学校
- 小学校男子走幅跳
優勝 白川 裕晃
- ◎県下銃剣道大会
□銃剣形の部
優勝 田中 憲央
- 小学校一年生の部（形）
準優勝 田中 孝章
- 小学校五年生の部（形）
準優勝 田中 憲央
- ◎西北五小中学校相撲大会
第三位 金木小学校
第三位 嘉瀬小学校
- ◎西北五中学校選抜野球大会
優勝 金木中学校

さくらまつり 町内外の

七百五十八人が勇姿披露



緊張した面持ちの分列行進

金木北部消防団連絡協議会（其田輝夫会長）主催の定期連合観閲式が3日芦野グラウンドで金木・中里・市浦・小泊の二町二村から23分団78名の消防団員、30台のポンプ車が参加して行なわれた。

式典ではまず殉職消防職員・団員に対し黙禱をささげ、藤枝ため池に21台のポンプ車で一斉に放水演習が行なわれ見事な水のアーチが作り出された。その後さくらまつりで賑わう芦野グラウンドで人員・姿勢・服装・機械器具点検を

行なった。

ピリピリとした緊張感の中金木幼稚園の幼年消防クラブによる遊戯、嘉瀬婦人防火クラブによる消火訓練も披露され、観閲者や集まった観客から大きな声援を受けていた。

この後分列行進が行なわれ、23分団78名の団員は糸乱れぬ足並みで威風堂々と行進し田中町長らの観閲を受けた。表彰者は次のとおり。

（金木町関係分）

- ▽消防庁長官表彰
- ▽永年勤続功労章



かわいい幼年消防クラブの遊戯



みごと消火

- ▽表彰旗
- 青森県知事表彰
 - 副団長 工藤 義光
- 金木町消防団
 - ▽永年勤続功労章
 - 分団長 平川 光平
 - 部長 中村 健男
 - 部長 前田 勲
 - 班長 土岐 俊一
 - 班長 三上 清久
- ▽日本消防協会会長表彰
- ▽功績章
 - 副団長 工藤 義光
- ▽精績章
 - 部長 廣瀬 正光
- ▽勤続章
 - 副分団長 白川 忠雄
 - 分団長 三上 保
- ▽青森県消防協会会長表彰
- ▽優良消防分団

- ▽優良消防分団（現場功労）
- 第5分団
 - ▽功労章
 - 分団長 三上 保
- 第4分団
 - ▽現場功労章
 - 班長 今 清作
 - 班長 松川千代明
 - 班長 浜田 和人
- ▽勤功章
 - 部長 角田 誠一
 - 班長 原田 正弘
 - 班長 工藤 光明
 - 分団長 平川 光平
 - 分団長 中村 健男
 - 部長 齊藤 勇
 - 班長 土岐 俊一
 - 班長 三上 清久
- ▽二十五年勤続章
- ▽二十年勤続章

- ▽十五年勤続章
 - 副分団長 白川 専市
 - 班長 長尾 精三
 - 班長 泉谷 佳司
 - 副分団長 今 清治
 - 副分団長 中川 満男
 - 副分団長 鎌田 善光
 - 副分団長 伊藤 友章
 - 副分団長 小野 拓男
 - 副分団長 浅利 清美
 - 副分団長 土岐 安政
- ▽青森県消防協会北五支部長表彰
 - 部長 浅利 光安
 - 部長 白川 幹雄
 - 部長 沢田 誠一
 - 部長 外崎 好信
 - 部長 松川 兼治
- ▽西北五消防団連絡協議会表彰
 - 部長 藤田 勉
 - 部長 加藤 勇
- ▽金木北部消防団連絡協議会表彰
 - 班長 泉谷 久友
 - 班長 鎌田 善光
 - 班長 葛西 博美
 - 班長 沢田 孝夫
 - 班長 白川源三郎
 - 班長 鳴海 恭治

変わりゆく芦野公園



整備されたふれあい広場



子どもたちに人気の噴水



花時計周辺

町では、芦野公園の豊かな自然を活かし「自然とふれあえる公園」をテーマに、市民の憩いの場としてはもちろんのこと、津軽半島をカバールする観光の拠点として、多くの観光客に楽しんでもらおうと芦野公園の整備を進めている。

この整備計画は、平成2年度から「地域づくり推進事業」と、平成3年度からの県営の「水環境整備事業」とを並行して進めているもので、すでに一部施設整備された「ふれあい広場」を含め平成6年度で完成する。

①桜の名所100選記念ふれあい広場整備計画

芦野公園の顔である駅前から薬師ため池までの約4haには桜を中心とした花や木を配置し、季節の花々が常時咲く憩いの場を、金中跡地約0.9haには駐車場を主体としつつ、子ども達が楽しめる多目的の広場を整備する。

②動物広場整備計画

現児童動物園が手狭になったことやじかに動物とふれあってもらおうと桜松橋対岸約5haにはヤギ・ポニー・ウサギなど、サファリパークとまでは行かないが自然観察など動物広場を配置し、裏側から車でも行けるように道路と駐車場も合わせて整備する。

③キャンプ場整備計画

自転車、バイク、車などで

津軽半島をツーリングする観光客のために川倉中島地区約3haに炊事場やトイレなどを設置し、さらには小・中学生の団体がキャンプを中心とするレクリエーションや展望、湖畔散策など野外活動も実践できる、広場型オートキャンプ場を整備する。

④湖畔広場整備計画

芦野公園を訪れる観光客なら必ず立ち寄るといふ太宰文学碑周辺を中心に休憩所やボート遊びなど遊水の場として緑と水の景観美を演出する環境を整備する。

この四つの整備計画は、平成2年度から平成6年度までの5年間で町の事業、県の事業合わせて約十億円の事業費が投資され完成する。

この事業により幅広い多くのニーズに応え今まで以上の大勢の観光客で四季を通じて賑わうこととなり津軽半島の最大の「公園」としてさらなる発展が期待される。

平成7年の春には今までは一味違った趣が味わえることになる。



中柏木コミュニティ消防センター

待望のコミュニティ消防センターが完成

消防ポンプなど防災施設がなかった大東ヶ丘地区と屯所が老朽化した中柏木地区に待望のコミュニティ消防センターが完成した。

どちらも地域住民の待望の施設とあって修抜式には関係者をはじめ多数の住民が集まった。



大東ヶ丘コミュニティ消防センター

袋をいっぱいにしていた。
 また、金木町日赤奉仕団（会長 今キネ）43名は国道339号線沿いを、金木町老人クラブ連合会（会長 木村不二男）390名は金木町全域各町内のゴミをそれぞれ拾い集めた。
 この清掃活動により、町全体が見違えるほどきれいになったが、ゴミに対する認識を高め、いつの日かゴミ拾いをしなくてもきれいな町であるようにと願ってやまない。



朝はやくからごころうさんです(老人クラブ)

きれいな町づくり

金木町校外指導連絡協議会（会長 瓜田正義）が芦野公園を訪れる観光客のみなさんが気持ち良くお花見を楽しめるようにと公園内と、賽の河原周辺のゴミ拾いを行った。
 ゴミ拾いを予定していた25日はあいにくの小雨で金木小学校6年生の80人が公園内を清掃。27日には金木中学校の111人が公園内を、28日には川倉小学校88人が賽の河原周辺を空き缶や吸い殻などでゴミ



雨にもめげず(日赤奉仕団)



もっとないかなあ(川倉小)



ちょっと一休み(金木中)



ワイワイガヤガヤ(金木小)

子どもに夢を

「しんごう・ほんご」隊

おやこ劇場「うそんこほんご隊」が4月24日中央公民館で開催され270人の子ども達やお母さんで賑わった。

親子劇場は、次代を担う子ども達の健やかな成長を願い生の舞台鑑賞やキャンプなど人のふれあいを大切に、大きな夢とやさしい心、勇気と創造性を育てたいと昭和41年福岡で発足し、5年前に五所福岡でもスタートした。

今回、金木でも親子劇場の公演をしてみらおうと松橋典子さんが中心に働きかけ実現した。

今の子どもの遊びには縁遠いような缶ケリやかくれんぼなど、昔ながらの遊びを交え子ども達の遊び心をくすぐった。特に集まった子ども達に参加しての山あり谷あり細い道ありなどを想定しての“宝を探す大冒険”は、ひときわ人気を集めていた。

「最初は不安でしたが集まった子ども達の反響や来年も

また見たいという声が聞かれとても嬉しかった。また来年もぜひ子ども達に見せてあげたい。」と松橋さん。

また、参加したお母さん達は「初めて見る劇で子ども達の頃に返ったみたい。私たちが忘れていたものを見た気がします。」と感想を述べていた。

ぜひこれからも子ども達のためにも続けて行ってもらいたいものです。



大きな声で手をあげ子ども達も劇に参加

嘉瀬ふるさとを探る会「かたりべ」インタビュー

郷土の歴史にスポットを当て、町の文化の遺産を後世に引き継ごう。と、昭和56年嘉瀬ふるさとを探る会（会長＝木村治利）で発刊した小冊子「ふるさとのかたりべ」がこのほど第9集を発行した。ふるさとを探る会は今年で15年目を迎え、苦労話などを交え会長にインタビューを試みた。

「こんにちは。役場の広報担当です。かたりべ第9集の取材に来ました。」

木村 それは、それは、ご苦労さんです。ウツテ宣伝してケヘジャ。

「それではさっそくお願いします。まず、第9集発行を終

木村 昭和52年4月28日だの。きっかけは？

木村 昭和52年2月に嘉瀬小学校百周年記念誌を出すこと

になって、その中に嘉瀬が生れた動機とか載せて残していただく必要があるド思っ、それをさぐってイグウチに嘉瀬にはいろいろな問題があるのではないかと思ひ、もっともつと探ろうじゃないかということになり、記念誌の編集メンバーが村の人ダヂに呼び掛けて昭和52年4月に結成したのサ。

「メンバー構成は？」
木村 現メンバーは嘉瀬の人たちだけ、15人。
「嘉瀬に限定しているのですか？」

木村 限定してる訳ではないんだけど。これからは金木の人でも喜良市の人でも入れていきたい。そうしないと、範囲が広くなると、嘉瀬だら嘉瀬で固定してしまうと伸びなくなってしまう。

「「かたりべ」の第1集はいつ発行したのですか？」

木村 昭和56年6月1日に発行した。年に一回発行する予定だったけど資金難とかで今は書くことに重きを置いてい。これでも結構カガルんだね。

「そうでしょうね。第9集で苦労したところはありませんか？」

木村 原稿がなかなか集まらなガツタ。嘉瀬のことダゲダハンデ書くことがだんだ詰まってくるダネナ。

津軽弁書いダンダけど、色んな人に聞いても忘れデしまつてるもんナ。一旦忘れデしまった言葉ってナカナガ思ひ出さネンダネナ。残したいと思っ書いダンダケド、ナガナガワカラなくて苦労したネナ。

「「かたりべ」の内容は会員

がそれぞれ持ち寄るのですか。
木村 会そのものでテーマを決めるけど、それ意外に自分で好きなことを書いてもらっている。あまり固定すれば見る人がおもしろくないんでバラエティーに富むようにしてるんです。

「第9集の中で町の地名について書かれていますか？」

木村 金木町の地名は今まで私たちが考えているのとは違ふような感じがするし、どうしてその地名が生まれたのかということを書いてみたかった。第9集に書いたのが正しいかどうかはわからないけど。いろんな文献を調べてもいろんな種類がある。

「例えば？」

木村 例えば、柏木という地名があるが、柏の木から来てるんではないかと思われるがそうでない。かしわとは堅い木だ。木というのは城、柵を表しているんだ。堅い木で造った城、柵があったから「堅わ柵」（堅い守りの柵）ではないかという説がある。

「地名はいつごろつけられたと思いますか？」



かたりべを手に木村治利会長